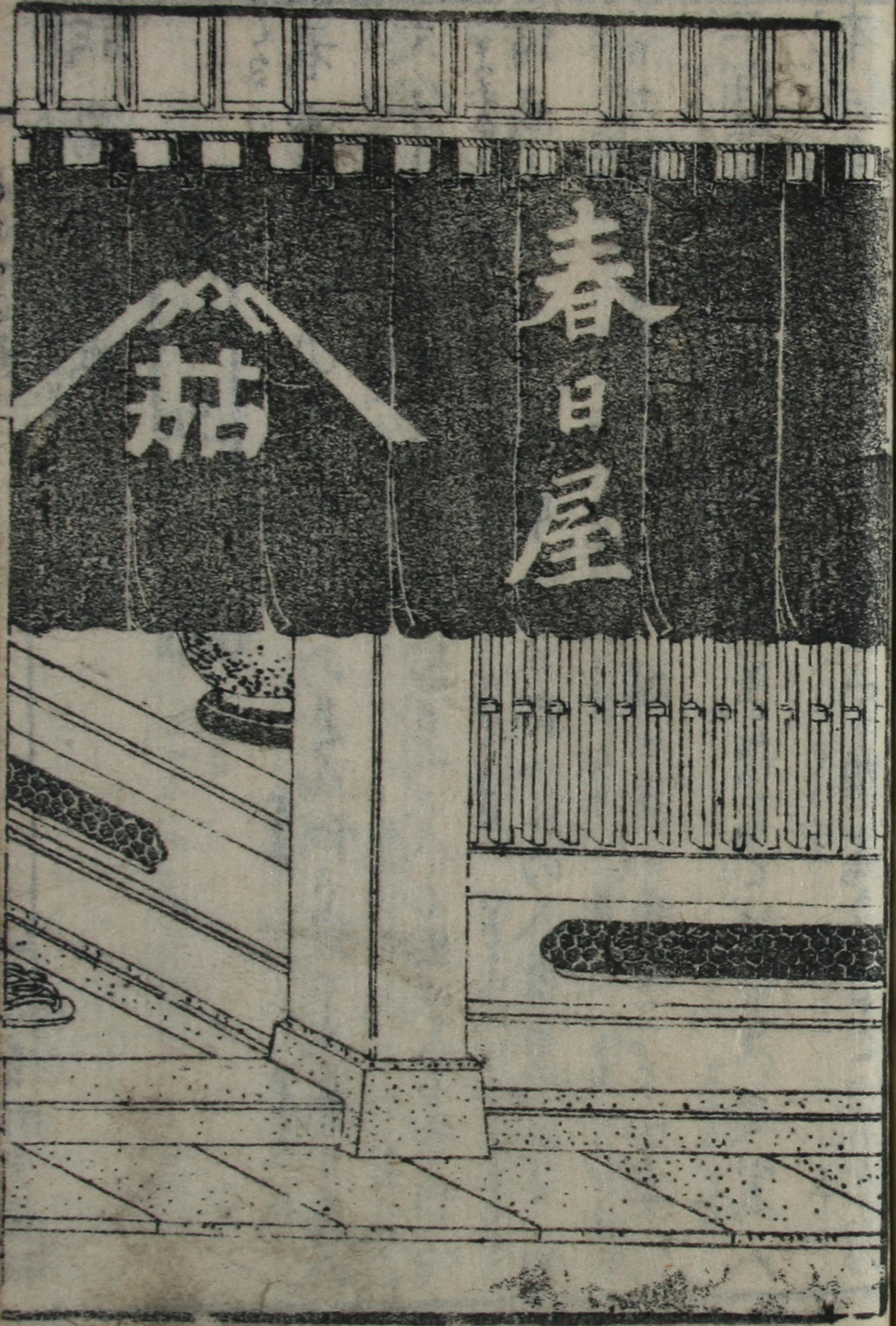


春日屋

姑



あひらひのちのまゝあり

明鳥後正夢三の巻

義五

田

ちるがは

春霞ひらめひさの。あまのまゝ紅らびてふ春日屋の。

もト

文字もめど度角屋あひさの。人と出る人を出、執侍

をよまをん

猪商人百万石御用達且按麻の入替の。竹見両

ぐ

替の賑はよと見世の並乃眼土義ハ間口二りふ奥行

え。

三間二ま二裱巻小蛇腹つきけの。の両窓ハ

かん

本三重のゆと。磨立。指里。春。入字の

あまの日の間ほのせ。若且那ハ鬼のまぢふせん

たぐもゆと。悪心おぐるひの未終あまの女は死つて行く

方志まじだ。清い雨とまぬ取めのくさく。地土土義の破去

のよめよ。どまのもか。とま穴ごまけ。若且那をまらう

あつて外。中も大分崩穴引。まものあつ夏まきあつて

の。千十まき成つけさくひんさむ。コリヤく。小保ヨ。す松

つまも。又禁粉がらん。ふひうげんよせん。とりあふく。又灰吹

あけ残す。そま志あまのころ。あま行く。あひひよそあひふ

てす。おてるさえの由業客辨出が出来てある。云伯極人

のりく行業網合さるるふた官の族たちを成りゆくと

らひ。あの男もむくから茶年へとくをさるるうきうん。

つらひえまのぐむざ口をうらひあるぞや。丁松まうこ

観物をかろくしてあるは美俵の竹次郎も角を

のりるぞ我が方古業のまひこととむら。瀬戸

のの細スの圓舟の格よ形持たるり大キクで用よこさぬ

奴でそあるト小言くらぐ。納戸茶床の羽織引かけ

「いふてア建ちあへくお出^したるるううの程^りなき死士^ののハヤレ^く

よ^{あや}夜^{あや}明々^{あや}いふまじ^{あや}からなる内^こ腦^{げん}がさ^いま^いらる^いん^いた^いま^いん

とらめくお^いた^いる^いん^いよ^い大^いき^いよ^いま^いら^いれ^いせ^いう^いま^いら^いし^いふ

さあ^いら^いた^いら^いそ^いま^いか^いつ^いら^いく^い今^い日^いハ^い一^い一^いお^いな^い死^いた

か^いつ^いめ^いく^い後^いた^いら^いり^いお^いく^いア^いモ^いと^いさ^いら^いら^いけ^いる^い第^いが^いこ^いら^い

お^いご^いう^いま^いあ^いる^いの^いの^い病^いま^いも^い氣^いら^いる^いせ^いの^い病^いと^い申^いら^い夫^い

よ^いア^い先^いの^いさ^い死^いま^いら^いく^いよ^いく^いと^い業^いト^いつ^いば^いら^いく^いご^いご^いら^いる^い松^い子^い

あ^いみ^いや^いた^いら^い又^い妹^い五^い郎^いめ^いが^いら^いら^いの^い喜^いし^いら^いる^いも^い



おゆき

おゆき

おゆき



おころ

輝五郎

5) 80

おめ入おたしうあま直ちいいままののううにに燈あかり又またををおおめめののままにに搦なケケててららびびつつうう

こふごろう

あまあまののううにに蜘蛛くま五郎ごろうおおめめののままににモモウウああののんんゆゆももりりののららぬぬららんんるる

め

ああららちちるる者ものががああののららのの女め房ぼうをを持もつつてて是これををふふままでで

くろ

苦く勞らうををささせせららととののややんんよよめめううりりががおおそそろろのの唯ただかかんんああんん

ま

ああくくししままろろとといいつつててくくままのの禮れいををららののままめめんんががくくおお入いああうう

あ

ああももももああままとと入いががはは海うみのの眼めががナナニニおお眼めででももここののののうう一一日日一一日日

あ

ななアアよよちちりりとと斗ありりののががせせ眼めぐぐいいづづつつややせせままうう三さん里りででももまま入い

あ

ととああままののままををフフウウそそととままででいいちちままのの一一ハハああままののままででああららうう

殊

イヤサるま〜そふぐふのうちのまのきかへ向つてゐるを合て

おぐみあるる中〜下^ま受テありそうおもせ〜頬^ほあり

系^りりやうえ系^ひひやうち^ええ糸

か佳む両^り壓^り画^りの百日^りづりの笑^え顔^ねありおやうう下^は女^にハイお

系^りが^い出^ま来^きお〜今日^け日^にハ又^まお加^く減^げが^ちち^ぎひ^ま〜こそふで

ごふん^まの^おひ^んど^んエ^いつ^もも^おお^のの^エヤ^く古^いら^う

を^のあ^まる^るね^ん〜あ^んま^り古^いら^うも^おお^のの^いみ^のま

お^わら^うこ^の今^こ年^とも^ち重^ち重^うあ^ぶら^う金^か六^んと^いい^み色^{いろ}男^お力^ち我

捨^まて^られ^る入^いり^うま^るの^う耳^みや^う〜お^はれ^るん^が私^のの

中うまのん^者でもあんなまひげっ面おもてのらんせきうつら成まらんふ

とらめのうホンニ全六さんのおのみま根こんあるものり味「小エト

仕古又も中せんうさささざうろくよ「ナニサあのよみナ者り女

房やうをふ可うああるめのサ味「モエかくもれるてく疑ああたれ

かためきさんのさんる顔かん色さくいねん「そのもりうりこののガ

あひひがのそろみサ味「チヤらうららあるああのいまもろそろんんる古又を

ああらあの中中「ホい「くくハハああんんゆゆもののぞぞききんんちちののガガ替代目目

替代目目はは芝居芝居めんめんせんせんくくするする亭亭ままがが持持ととうういいつつ

六えんがうらまぶりのごいハイな松サあまはあま口あまらあまがあまヨあまウあまクあま全あま六あま

さんくあまとあまああまんあまよあまくあま腹あまがあまたあまらあまうあまてあまトあま蛛あま五あま郎あまがあま脊あま中あまとあまいあまうあま

づあまこあま心あま疎あまくあまとあま物あま々あま行あま一あまこあまのあま女あまアあまトあま追あままあまのあま似あまをあまてあま居あま座あま〓あま

モあまおあま照あま松あま一あまノあま谷あまのあま狂あま言あまであまもあま熊あま谷あまとあまのあまみあま中あまのあまああまらあまるあまめあまのあま

であまごあまごあまんあま中あままあまとあまねあま入あまトあまそあまうあまやあま又あまナあまゼあまトあまちあまらあまるあまああま中あまのあまああまれあまどあま

敦あま盛あまをあま殺あまとあまごあまんあまめあまくあま。我あま子あまのあま小あま次あま郎あまがあま首あまをあままあまるあま

とあまらあまふあまもあま。ああまんあままあまりあま又あま軽あまいあま仕あま振あまをあまやあまアあまごあまごあまうあままあまりあませあまんあま。免あま

不あまてあまめあま入あまの子あまごあまごあまうあまとあまくあま大あま根あまやあま芋あまごあまらあまやあまアあま有あまルあまめあま入あま。たあまとあまへあま

鼻くの主人の子も多う軍と多うてのからひ中まとどり。

先をころころね入ところちが殺れよめとらい中まの敦盛を

をあろしたろく誰が何といふのがあんがたくいはせらる

て我子を殺とてあまろせ入出せぶもさらる古更ら仕舞中まと

禮の下へ加衣袴衣をさると兎を取と坊をさらるありてさらるいふ

まどだがならくしの行めりならばさらるやせんうの是六宅兎

承ちりき了しの刺殺といふ己并殊よ二子出家といはれば九族

天よ生まると中まの功徳よありといはれる古更ら

際

モしくまごころ其出まごころ了まごころ等まごころがまごころこまごころらまごころふまごころごまごころごまごころらまごころうまごころのまごころせまごころあまごころらまごころてまごころふまごころどまごころ船まごころ出まごころ

其まごころ柄まごころ扱まごころをまごころわまごころくまごころづまごころままごころうまごころのまごころんまごころぶまごころ坊まごころ主まごころのまごころ方まごころへまごころ引まごころ摺まごころ込まごころうまごころとまごころいまごころふ

佛まごころ説まごころ方まごころ便まごころ虚まごころ言まごころぶまごころごまごころごまごころらまごころふまごころかまごころままごころとまごころ寺まごころのまごころ藁まごころ間まごころやまごころ天まごころ井まごころよまごころ彫まごころ

画まごころとまごころりまごころ製まごころ表まごころあまごころるまごころうまごころらまごころ。大まごころ畧まごころ天まごころ人まごころとまごころ云まごころ者まごころへまごころ和まごころ尚まごころのまごころ親まごころ類まごころ一まごころ

族まごころ黨まごころをまごころ集まごころめまごころるまごころらまごころふまごころ。先まごころをまごころとまごころ早まごころづまごころらまごころてまごころんまごころのまごころもまごころ先まごころのまごころのまごころがまごころ。そまごころんまごころをまごころ

工まごころとまごころ成まごころりまごころのまごころ物まごころ也まごころ。こまごころらまごころりまごころアまごころあまごころんまごころんまごころもまごころ志まごころとまごころぬまごころをまごころれまごころどまごころ。あまごころらまごころがまごころ私まごころ乃まごころ

親まごころ父まごころがまごころこまごころれまごころ久まごころしまごころ時まごころ分まごころ号まごころ日まごころ蓮まごころとまごころうまごころりまごころのまごころ坊まごころ振まごころのまごころおまごころ代まごころ表まごころがまごころ地まごころおまごころのまごころ人まごころ

のまごころ二まごころちまごころくまごころ。そまごころもまごころもまごころあまごころらまごころのまごころとまごころ其まごころ坊まごころ振まごころがまごころ足まごころ付まごころ出まごころくまごころ。

望のぞくまま家のんで降函よそふんぞんをぞう施せ我が鬼まとりみ

言ことをととりとし赦ゆる免かんがかあらふとのりくく本ほん所じよの五百ひゃく羅ら漢まで。

其その時とき初はつとし、た畏おそのせぶをじが始はじりしとのみま古ふるまとくごぞん入いん

勿な論ろんそのちぢげでおは儀ぎをなで出中ちゆうこそあらぶ。このららア

うそでお入い吐はいんげんぜん其その時とき中ちゆうでおんをもめんくうまう。こ

そふご。持もれいろふとろ子こ坊ぼくまよまるつともおあらうらん地

かつくへ行いくみが有るのの紙どふくく親おん類るい縁えん者しやまうて天

人ひとどのえらう。天てん井ぎやうへ生まるく。猫ねこよでもとくねく仕弄まぬ。

「照志々々そまのくぐ其まのくぐ拵まのくぐのめちまこと。まうく煩悩即甚たのみのそくが口

提まと中らりいよひま放まとがくまの人情あせざうをまままく入つてのう

まのままのまかてまうての愛心あきんでもまままうう。ままも佛かみの

お道引まらひア、浦山うらやましん蓮生れんせい法派ほっぺ一まモまくまそまのめく

んまと此有あがまの神國しんこくへまままくまこま古こ又またも後人こうじん唐天

望まありつとまままぬま後の世のちよの古こと又また併あもま儻たうの甚ごと太た味み噌そう

をまおま祓まごうまハ人あ情せうでまおませま入ま中ちゆう及またまれまどま論ろんよりま證せう證せう

此こ國こくの大お先せん祖そ大だい神しん宮ぐう様さまハ坊ぼく主しゆ天てん宮ぐうとま拜まムまことハ公こう家け

まるせんぜ。其^{その}苦^くでもあ^あら^らや^やせ^せう^う神^{かみ}ハ人^{ひと}の^のま^まる^るを^を存^{ぞん}び^び
 佛^{ほとけ}ハ又^{また}つ^つる^る中^{ちゆう}も^もあ^あら^ら古^こ又^{また}斗^とり^りき^きと^とめ^めた^たら^らる^るか^から^ら反^{はん}ハ^ハ合^あハ^ハね^ね
 苦^くら^らぐ^ぐと^とせ^せ入^い中^{ちゆう}も^も。あ^あづ^づ遠^{とほ}イ^い先^{せん}祖^そハ^ハさ^さと^と置^おく^く今^{いま}有^あル^る親^{おや}
 の^のあ^あら^らる^るの^の成^{なり}と^とく^くと^とら^らじ^じや^や。這^こハ^ハバ^バ立^たテ^テ。た^たと^とく^くバ^バ歩^あ行^り
 と丹^{えん}精^{せい}と^とく^く。漸^ゆの^の古^こと^とく^く人^{ひと}尺^{しゃく}ゆ^ゆ。そ^そま^まと^とく^くと^とら^ら嫁^{よめ}も^も坐^まる^る
 とく^{とく}。聲^{こゑ}成^{なり}取^とる^ると^とく^くと^とら^らして^{して}。ヤ^やレ^レと^とま^まと^とく^くや^や是^{これ}ら^ら初^{はつ}孫^{そん}の^の顔^{かほ}
 見^みる^るが^がら^らも^もの^のし^しみ^みと^と我^{われ}が^が年^{とし}の^のあ^あら^らる^るゆ^ゆの^のま^まも^もつ^つる^るは^は先^{せん}と^とら^ら
 先^{せん}成^{なり}の^のま^まと^とく^くの^の人^{ひと}子^この^の可^かあ^あら^らく^くは^はま^まと^とく^く居^いる^るか^から^ら

まかせし佛もまじりしも神もいざなりしも親もあざむきしをけりしと
よのや教ハ有まるとあり。モモあんまりあざむくお合イヤ録谷
小親ハいざむくまじりしと若くもあざむくしりけり
おんまり、嘶ふ實グ入ッて。大きよ泡ア喰中一とコレ
蝶五郎どん今よまじりしとあぬ真實のいん。らりしと
悪しハいざむきまじりしと捨る神もあざむきしとけりしと
まじりしとあぬ一ナシハあぬとまじりしと其極よあざむきしと
あざむきしとあぬとまじりしとあざむきしとあぬとまじりしと
あざむきしとあぬとまじりしとあざむきしとあぬとまじりしと

ちりちり人^{えん}間の^きま^み紙^ま受^あく^ま生^まれ^まこの^あの^ま此^あお^ま店^ま子^まい^まび^まら

と^まを^まあ^まら^まら^ま。お^まあ^ま人^まさん^まも^ま若^ま且^ま那^まも^ま供^まを^まの^ま中^まの^まよ

思^まつ^まて^ま云^ま月^ま中^まこの^まの^ま大^ま且^ま那^ま方^まも^まあ^まあ^ま人^まさん^まを^ま

藤^ま志^まと^まつ^まら^まく^まと^まむ^まの^まの^まあ^まや^まア^まど^まど^まり^まや^ません^ま只^ま今^まヤ^まリ^まと

越^ま子^ま谷^まの^ま言^ま又^まを^ま。只^ま見^まん^まと^まお^ま仲^まの^まあ^まる^まう^まと^まん^ま。つ^まら^まら^まけ

と^まら^まア^まや^まふ^ま違^まと^まぬ^まお^ま心^まダ^ま子^ま。け^ま比^まお^まら^まん^ま世^まの^まう^まら^まと^まい^まん。

お^まあ^まん^まべ^まエ^まグ^まよ^まく^まと^まら^まと^ま。江^ま島^ま藤^ま倉^まへ^まお^ま出^また^まの^まと^まら^ま

よ^ま夏^まら^まら^まト^ま已^ま勝^まら^まぬ^まわ^まら^まら^まん^まあ^まら^まお^ま供^まの^ま身^ま非^ま

ころころと^まぼた^りだ^らの^まき^きき^き居^ぬくも^さ今^まふ^まる^まん^の也^さ淋

は^まあ^まり^りと^ま考^ま中^まて^ま本^まが^ま平^ま日^まお^まな^ま者^まの^ま時^まで

さ^ま入^ま出^まぎ^まる^まの^まの^まあ^まめ^まん^ま殊^まは^ま此^ま節^ま由^ま病^まま^ま中^まを^ま周^まく^ま受^ま

引^ひつ^えび^のく^の居^のる^のと^の斗^まり^のあ^まり^の召^めむ^の照^て極^まく^まあ^まね^まげ^まる^ま

江^えノ^の島^ま謙^ま倉^まハ^まテ^まナ^ま江^えノ^の島^まハ^まリ^まグ^ま謙^ま倉^まグ^まミ^ま中^まよ^まら^まる^まね^ま空^ま

若^わ且^ま那^なの^の今^い度^まの^のま^まご^まら^まみ^まさ^まる^ま心^まを^ま立^たて^まぬ^まく^ま也^ま心^まか^まら^まり

る^る。せ^せ入^ま姿^ま姿^まと^と見^みえ^まぎ^まら^まる^ま。一^い筋^まよ^よ後^あ生^まを^を松^{まつ}ノ^の岡^{おか}也^ま

ひ^ひの^のま^まの^のま^まを^を連^つれ^まる^まあ^あの^のま^まの^のま^ま。

迷惑めいごくとせしめ人為ごゑと。あつと心こころ入いらうんざら。身みまの言こと又またや

何なにや彼かれを思おもひ合あはせらるら夏なつやもろ。モシそりやアあんまを

おどろのまたぜ百ひゃく題だいと十じゅうヲうろのしとや。病びょうをまも

其その透とほり石いしよかぢり甘あまくも。うくちあふくとつてさへ埒あち

のあふぬへ茶ちやの廻まわり。そまよアちうよも早はやく死しよ

たののり。うくちあふと坊ぼうまよ成なるのこもろく

斗たうりういひるのぬ。ぢりて茶ちやも廻まわりまらせり。お下くだりまら

ちうぐりもあけの一いち心こころ成な田でん様さまへ二に年ねん願ねん酒しゆは比ひ七しち日にちの

一いち日にち成な田でん様さまへ二に年ねん願ねん酒しゆは比ひ七しち日にちの

ハ人の物ものごころも。今日けふが丁度じやうどけらるるん故ゆゑ翌五日あしたの五日の成田なりた

くるはより。若わ且かつ那なの由よし帰かへ来きあるまの由よし病やま来きどめぞ

元の途とちつ若わ且かつ那なの由よし帰かへ来きあるまの由よし病やま来きどめぞ

らうらう。もしきそれの端はたのうらうらうせえ是こゝ程ほどまがくるは苦くる勞らう

をきとよ。かんとんのおめさんおめさんがあんまりあんまりるる人ひとお人ひとお心こころ

でちのせ人ひとまきと。まのまの衣えがは箱はこももささららとと方かた付つけテテ。お

二人ふたりのの内うちあんどあんどととせせつつ下くだりりはは漸しだ々々とと平ひら平ひらのの管くだ田た

と花はな形かた村むら若わ且かつ那なのの隠かく家ゑ一ひとトト足あちちくく浦うら里りがが親おや

の篠塚婆アと申ら。身受の減が知ぬ顔くらゐの掛

を笑は着てふいぢあふ衆て四ツふみ駕あつけちくして

今と若旦那のお言言葉を半分おゆめく引返して

つゝお二三町おろけくへ見えまう。身受志こころ

りらびも玉ハあらちのの。ちろふ古又ちろ。是幸の才受の

今もそんゆくも。女のふさ入切してまう。お徳も一は

早うろくと。前へ一ト足ぬ人一ト足ヤくそねむぐく浦がと

えんハ母親が引分うて連くりらくころ。そ。あつらふ

身受まゝまゝいふいふ親内おやご人ひとちんぢちんぢららかかりりももちちややううひひるるががんん其その

様さまノノちちややけけんんふふききすす。そそももちちんんはは是こゝらら若わ且かつ邯かんづづ。ここをを以もつ

不ふ自じ由ゆうちちののここららとと有あるる。ココレレ蝶てつ五ご郎らうととんん取とりりとといいふふとといいふふ

思し安あん永えいハハるるののここらら。アア其その所ところはは落お付つららとと居いふふ。親おやのりええ

早はやよよららつつとといいふふ蝶てつアアモモシシとといいふふ。そそののままにに成なかかりりみみちちとといいふふとといいふふ

ままちちせんん。おお有あ家かがが知しるるここららああははとといいふふ置お置きヤヤとといいふふおお

アア落お付つ甘あまくく。おおららとといいふふとといいふふ。おおみみ方かたががそそんんななとといいふふ

とといいふふてて。いいふふとといいふふとといいふふ。居いるるとといいふふ。浦うら

里さきとそらせしくちのそ。ちめんさんどよあさる内こりす。等らだん

照 可あの遠あふさあさるえん是これも中ちゆうたろう前ぜん世せの果か縁えんは

夫ふう婦ふうハ二世にせと中ちゆうたろうは世よ々々ごごそらそね其その音ね日ひリみらののさるゆえ

ふうぬ中ちゆうし。由よしまごんののらひとら成なり見みくさふぞお授ま中ちゆう

てなもそれちらうらうがたのそと。跡あと々ごご後ごよ口くちがらう矢い見え

小こつ々ごご此こ蝶てつ女にょ郎らうも。お照てんが胸むねの奥おく底ぞこをゆめく取とること

伺こひ中ちゆうたうの共ともよ後ご小せうむせうる折をぶ下しも女にょが案あん内ないは連つて

入い来きらう菽しゆく井いん碁い庵あん附つ係けい老らう母ぼのあふ顔かほ二に人にんとハツト

十六 青林堂藏板

そきくぬ顔かほをぬくもる。胸むねと胸むねもひびく。金の下
がひびく。アねんこと海うみまぎる。せせせせの

第六回

行空ゆくそらの道みちもあやふし。ぬくぬくの闇やみをたぐり。地獄ぢごく谷や篠の

塚づか邊へにが宅たくにぬく。途中ちゆうちゆうに地獄ぢごくのあつと。ぬくぬくと

虫むしが知らせく。心こころ細こまくも春日はるひ屋やのよみ代よしろ俊とよ七しちの志こころと孝うやまつら

世よの美うつく理しみを建た川か通とる。真まこととよ。降ふり春はる雨あめを悪わる人ひとホグ。の

る。後のちに。及およびの光ひかりコハ

時^{とき}を^をと^とぬ^ぬ箱^{ひら}妻^{づま}く^くと見^み返^{かへ}る^るひ^ひま^まの^のも^も情^{なさけ}を^をや^やた^たら^らさ^さり^りあ^あび^びる

一^{ひと}太^た刀^たの^の深^{ふか}い^い小^こツ^つ引^ひト^と反^{そり}返^える^る声^{こゑ}を^を目^め當^あは^あ全^{ぜん}六^{ろく}も^もさ^さ一^{ひと}

あ^あら^らら^ら傘^{かさ}を^をた^たら^らみ^みけ^けめ^めの^のめ^めら^ら打^{うち}つ^つら^ら者^{もの}泥^{どろ}走^はる^るコ^こロ^ろイ^い

最^も早^{はや}い^いく^く。コ^こサ^さ太^たん^んの^のえ^え結^{むす}ト^とり^りの^のよ^よ。ク^くり^りと^と入^いら^らぬ^ぬ

さ^さよ^よく^くト^とら^らぬ^ぬ妻^{づま}の^のハ^はア^あ最^も早^{はや}死^しら^ら。弱^{よわ}奴^{やつ}ナ^なア^あッ^っッ^っ口^{くち}へ^へる^るよ^よを

半^{はん}と^と見^み返^{かへ}る^る。ツ^つリ^りヤ^や息^{いき}ハ^は止^とタ^たら^らる^るみ^みコ^こノ^の結^{むす}く^く。あ^あら^らら^らと^と念^{ねん}の^のす^す

サ^さア^あ是^{こゝ}ら^らと^と彼^あ明^あの^の玉^{たま}ト^とヤ^や。コ^こト^と一^{ひと}き^き津^つの^のぎ^ぎら^らん^ん後^{のち}々^々島^{しま}の^の

賤^{せん}布^ふ入^いる^るく^く渡^{わた}る^る答^{こた}ト^とヤ^や。コ^こリ^りヤ^や賤^{せん}布^ふの^のみ^みせ^せん^んた^たら^らら^らの^のあ^あら^らわ

二ツの残が四百程ださきながらくわるたさうりごとくちのまの

ちやあちくし。くわあちやいごまのさやちの犬さまじやくト。

狂氣のどくも尋する全六飛助泥花緒ともは後七が帯まで

引解見もども申入よん人ごもつ。三人死骸入よ。流くコリヤ

どみちやあさねくめのがらねくを骨を折くあん

のあつしイヤまへんせどもコリヤ合占がゆめあやしん

三人ちがせくちがせくらみ。此者が持く入の金

め相違あるら。三人そまよ無くしん

風情と^らおま^らる^る方^方が^が着^ち腹^ふを^をや^やナ^ナ一^一ナ^ナと^と我^わ木^まが^が取^とり^りて

何^{なん}の^の事^{こと}か^かと^と思^{おぼ}は^はる^る事^{こと}は^は泥^ど花^かと^とや^やア^アお^お入^いを

全^{ぜん}不^ふヤ^ヤ余^あり^り後^{のち}口^{くち}ある^る仕^し業^ぎも^もど^ども^もあ^あの^のみ^みの^のれ^れも^もて^て腹^{はら}た^たて

て^てと^とさ^さら^らの^のた^たま^まも^も心^この^の音^ねも^も金^{かね}づく^{づく}。其^{その}の^のあ^あら^らま^まさ^さら^らと^と

一^{いち}群^{ぐん}中^{ちゆう}を^をそ^そく^くへ^へり^りと^とぐ^ぐ五^ご十^{じゆう}両^{りやう}跡^{あと}五^ご十^{じゆう}両^{りやう}を^を使^{つか}ひ^ひと^とお^おま^まの^の事^{こと}を

三^{さん}人^{にん}へ^へ割^{わり}分^{ぶん}を^をま^ます^する^るに^に古^こを^をや^やが^がハ^ハテ^テウ^ウム^ムある^るに^に是^ぜ非^ひが^がある^るの^の二^に十^{じゆう}五^ご

両^{りやう}と^と四^しつ^{しつ}ぶ^ぶと^と計^{けい}し^しる^る。可^か分^{ぶん}や^や甲^かと^と計^{けい}し^しる^るの^のこ^こに^にち^ちま^まる^る。ヤ^ヤと^と計^{けい}し^しる^るに^に一^{いち}つ^{しつ}と^と計^{けい}し^しる^る。

そ^その^のま^まに^に計^{けい}し^しる^る。あ^あの^のう^うに^にあ^ある^る馬^ば

鹿ぐへんのせんぎしトロイヤ飛助とびすけももちやまうしやアこらもは方かたもその

通とう全六ぜんろくさんおめがあわしのちのままさんざのの斧きりうち成

さまままくく後のちぶぶちちめめつつがが小力細こぢユユそそふふううままくくふふささめめめめののけけ不ふ届とど

全ぜんおんおんああぐぐコレコレののけけああととむむののううとと細こののととのの人ひと全六ぜんろくががややるるひひぞぞととま

ひひまま思し根ね根ねのの有あ者りちちりりやや大お切きちちなな身み代しろのの支し配はいささめめててハ

おおううぬぬここのの太おいいととらららららら羽折はなのの細こささええききととひひドドややアアのの正ただ直ただ

なな番頭ばんとうさんさんがが今こん夜やのの始はじめ末まへへどどふふのの人ひと物ものぞぞアアココリリヤヤヤヤんんのの出で

来き心こころ志しもも後のちゆゆもも前まえゆゆももこれこれがが初はつめめよよままらららららら不ふ勝しょうととままや

そまらぐあまう入方ふ。あつものめふとらつらとこのめぐり捧め正

どふらつらみらふと。ままのあにだまをへこことまどづめ。サア飛助

このもまをうしてあんだくろう。ツト合点ト。た右りら立

そりやあんまう。たんまどやくひけすくく。下は居こ

か。斯あや。兎角あまう入方ハ私が巻上ことあまうの私ハ

亦二入の尻を繋ぐ斗りきりころん。輪がひまるのまやこのめて

斯髮心の起くつる中と。互は帯解くとんせこのあが死今ぞ

あ。圍の更をやめ。どまのふも隠せぶうくせまぬハるく

そまのどま亦ち此ら様な成る不ま又ま長が居あてて人め眼め亦もからなりや。其臺ど

座ざ後ご光こう仕し舞ま拵ご笑わらふや。まる何なんじやろと三さん人にん揃とく地獄じよく

谷やまるとく行いくハテめ面めん々くのと身み晴はれやゆのりげまるてまるるて

為な見みそまでうさびひいたままめさびあのうらいそまして毎

時ときハは女にアもからなりとさらうとく三さん人にん仕し組ぐど狂まとあらふ

ごろふそりやそまるひナ物志えやかままて見えれけ三人にん

の中なかごろちらうとろ物々たならろ一成とわど斯し互ごよらたらあのく

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを

んと持も組ぐの其万ままであら常じょう木もも鬼よ見えるせあるを



風雨

三才圖會

木下五郎

大坂陣



木下五郎

しつぱあしつて居る。まじむらでしつてまじむらやア居移入うらむら持

めそまじむら下時へよ引よまじむら有時の脊中人廻

可^いのまじむらつてまじむらめまじむらむら行へまじむら夜明よ近よせ

むらつてまじむら全^いむら。まじむら待い泥荒のまじむら通り成程ある

ろ^い常木も鬼^いもやトモ敷心もぐ中まじむらまじむら斯^いもや三人揃

てむら^いや何^いも理屈^いへるむら。まじむらそれまじむら理屈が大方むら

イヤ悪^いむらむらや宜^いむら^い面々のまじむらむらやまじむら^い自他^いとのまじむら

むら。まじむら^い懐中^いはむら^いとむら^い居よまじむら^い三人別^いむら

あつくりし
歩行中ゆゑに柱折れ尻をくちや中ら。芥溜の内より人ホイト投ぐ

置て後より河をくくもつとみゆも有とや「らるる」ト云

斯為がら三人並ぎ中の中者の懐中より両方の人の心

とみ成極るゆゑにうそあそ中の中者へ両方の懐へよと入て

右と左の、み成極るゆゑにあつて一奉も無せこれでも大

丈夫ごうふ「全へ」でけ。妙案「か」らうとも早サ私

中へ這入サかみ成入るまこれ。冷むひナアそれ私ぐんをと合する

ぞ。く冷懐ナス斯冷く居るかすけ方熱心志やト他と懸念

うづむれ三人並猿智恵々欲ふらみく眼もつんぐる伏む

悪者互に難くしとて内懐に握る人も

くやあるは安敵のそとあそひ行る跡もむぎんハの代の

七悪者どもの毒よふ掛りひびくむも砂村のささるふ

まふとくたるは取期降人涙り春雨も猶うやと志はる

嵐風をぬり竹藪の立枯の竹二三本めりくくとあ

折る腰を伸く現出る篠塚婆ア振乱たる

九十九髪極上なるうさぶらりぬさる當る後七が死骸

仕掛ケ置あひくる左右さうりゆうの肺半きんぱん裡うち以もつ解とく々ひたひた引ひき放はなし。まじりてありき。

きよていごあつてふ。微笑あつ惠あつ成あつ腹あつ入あつまる肺半きんぱん六む五ご十じゅう両りょう。まじり百ひゃく両りょう

結むすままぬぬううねねとと期ぐるる後あ坐ま當あのの其その坐ま當あをを心こころ當あかか死しままど

コこサさるるううたたととささよよトと心こころののトとももららとと居あるる眼まなこ前まへふふあありりくく見みゆるる三さん

度ど坐ま心こころ焼やくく取とととくく早はやくく引ひ切き坐ま當あもも夕ゆふ夜よ延のびの

針はり仕し業ぎやう云い々々めめりり縫ぬいくく一いち。肺半きんぱんとと共ともふふかかららくく折をり

爺おや島しま蝶ちょう立た郎らう。成なり田た菰このの鹿か島しま立た来きををるる途みちははああ中ちゆう死し人にん程ほど

合あ点てんののゆゆめめととててちちらんらんのの明あかりをを曲まが瓦わ袖そでもも狭せまきき小こ路ろののぬぬらら



水みづらるる火あか彩いろ小こまのつく婆おばアア推おし持もち一いちある切きりをを座ざぬ乃の

てうらん目め當あふあなるまうまううトトううててびびひひごごののととくく暁あきのの煙えんもも夜よや

生死しじをを志しががくくるる多たふふささるる川が浪なみううるる志しとと心こころ明あ烏う後ごノ

正ただ夢ゆめささめめくくああららままををめめ巻まのの物もの結むすハハ近ま日ひ出で扱あ仕し外ほか

明あ烏う後ご正ただ夢ゆめ三さんのの巻ま尾び

二代目南仙笑林之満人

台下瀧亭鯉丈合作

羽川園道画

涌泉堂板

